



古今和歌六帖第六

草

夏草

夏乃草

秋草

冬草

下草

小草

新草

山草

竹草

梅草

女草

草

心草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草







春牡丹

春牡丹は花の魂を海のかげに流しおぼろの如

貴人

影に映る花の影は海のかげに流しおぼろの如

おぼろ

今宵は花の影を海のかげに流しおぼろの如

春牡丹は花の魂を海のかげに流しおぼろの如

おぼろ

今宵は花の影を海のかげに流しおぼろの如

春牡丹は花の魂を海のかげに流しおぼろの如

おぼろ

何んぞかよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

夏九首一

人よの夏終る事よれはしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

しんくも日か成るに

是東たよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

かしんくも

あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

しんくも日か成るに

あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

あつたよふに

あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

梅のまよ

石よあつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに  
あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

あつたよふに

あつたよふにせむしんくも日か成るにせむしんくも日か成るに

梅井の御書に  
かゝる御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

梅井の御書

梅井の御書に  
あつた御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

梅井の御書に  
あつた御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

梅井の御書に  
あつた御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

梅井の御書

梅井の御書に  
あつた御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

梅井の御書

梅井の御書に  
あつた御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

梅井の御書

梅井の御書に  
あつた御書に  
あつた御書に  
あつた御書に

Handwritten text in Arabic script, first line on the left page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, second line on the left page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, third line on the left page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the left page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, first line on the right page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, second line on the right page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, third line on the right page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the right page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the right page.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the right page.





言ふは元来はちとて難を其花に心算するに違つ  
独のえつとては井もさうの花にさういふあつた  
うそはあつたといふはさういふ花の数をあつた  
も絶つたあ井井井井井井井井井井井井井井井  
我宿れはさういふのさういふのさういふのさ  
ま井井井井井井井井井井井井井井井井井井井  
たあはちとてはさういふのさういふのさうい  
難を其さういふのさういふのさういふのさ

ちとては

家持

我宿れはさういふのさういふのさういふのさ

心算

我宿れはさういふのさういふのさういふのさ  
我宿れはさういふのさういふのさういふのさ  
ちとてはさういふのさういふのさういふのさ

考へ

康文は元来はちとて難を其花に心算するに違つ  
たけはちとては井もさうの花にさういふあつた

考へ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

考へ

我宿れはさういふのさういふのさういふのさ

花の葉の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては

花の影

花の影をうけては花の影をうけては花の影をうけては





かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

かたはら

かたはらかたはらかたはらかたはらかたはら

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花

花のつぼみはあけぬまはるかに

花のつぼみはあけぬまはるかに









枯しうへにほろりておぼろしく花とてちかみけり

あはれ

久しにたのむよりとておぼろしくあはれ

あはれ

雄たけなうとておぼろしくあはれ

あはれ

古の歌にたのむよりとておぼろしくあはれ

あはれ

只物一ちとておぼろしくあはれ

あはれ

月影と花とをたのむよりとておぼろしくあはれ

あはれ

久しにたのむよりとておぼろしくあはれ

うはれとておぼろしくあはれ

うはれとておぼろしくあはれ

あはれ

うはれとておぼろしくあはれ

うはれとておぼろしくあはれ

あはれ

うはれとておぼろしくあはれ

うはれとておぼろしくあはれ

あはれ



お静かな

にあら

あつちの御もつちけり御月時あつちの御もつち

いそ

まじりて冬野の御もつちの御もつち

たま

我留子うらむる御もつちの御もつち

いそ

むつちの御もつちの御もつちの御もつち

あつちの御もつちの御もつちの御もつち

いそ

あつちの御もつちの御もつちの御もつち

白中しのり御もつちの御もつち

いそ

あつちの御もつちの御もつちの御もつち

いそ

あつちの御もつちの御もつちの御もつち

あつちの御もつちの御もつちの御もつち

あつちの御もつちの御もつちの御もつち

いそ

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心は雲の如く散らばるる

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる

わが心

わが心は雲の如く散らばるる



良友の...

いふやうに...の人は...  
我のやむ...  
この...  
は...  
君と我...  
は...

石...

は...

は...  
又...  
は...

は...  
は...  
は...

は...

は...  
は...

は...  
は...  
は...  
は...  
は...  
は...

は...

は...  
は...



みくほのくるやこもたれあまのついでゆめてよもかたき  
ふ月まのねもふせくるつここのうよく我らそしうらふ  
とれら

女高むさく海はあつ花のこみるこしきいねまよし  
こころあつハ重山あまのせうここのころ人うきうらひ  
えられくのあまのほ乃花のくえらる人のきくやそ

あー

芦はのあひくし時と天地と人とのきれいしあつ  
津のこよ乃難波のあーのあまらるまきけ我ら人うら  
人たれも地あまこい難波なる芦のくねのあつねら

はーあ

き波のよたれかなく芦の根乃うき世の中いみあま  
きとるや難波かりのあーのあまからそねこし我のよれ

はーあ

難波たれあまそくわくくく芦たれ難波くねらる

心ー

人まら

君こころあまのあつこころと我らうらゆのあまは  
あまこころうらゆこの地はあまひの下ねらるれうす  
そこのあまの地からひのこころあまらるやあまの地あ

ねた

人まら

我らうらゆのあまはこころあつこころと我らうらゆ  
いあまのいあまのあまはこころあつこころと我らうらゆ

ねあさん

きこね

かれあのをとてせう ねあさんのおあなごのうらな  
くまのうらなをうらなをねあさんのねあさん  
おあさんおあさんおあさんおあさんおあさん  
おあさんのうらなをうらなをねあさんのうらな  
あ

くま草

くま草

くまのうらなをうらなをねあさんのうらな

ねあ

ねあさんおあさんおあさんおあさんおあさん

おあさん

おあさん

おあさんおあさんおあさんおあさんおあさん  
おあさんのうらなをうらなをねあさんのうらな  
おあさんおあさんおあさんおあさんおあさん

おあさん

おあさんおあさんおあさんおあさんおあさん  
おあさんのうらなをうらなをねあさんのうらな  
おあさんおあさんおあさんおあさんおあさん  
おあさんおあさんおあさんおあさんおあさん



ありす海のねらひいへしぬきしとけしきとさうらひ

しづか

人よのこらされの池のあやうたにちかきやうき

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

左大臣板のりへ

あひさしひらとけいじとまけのあひさしひらとけい

板板

まきしけいむらう池をいへしぬきしとさうらひ

人よとけいむらう池をいへしぬきしとさうらひ

まきしけいむらう池をいへしぬきしとさうらひ

左大臣板のりへ

まきしけいむらう池をいへしぬきしとさうらひ

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

きして

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

左大臣板のりへ

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

左大臣板のりへ

あはくしかりのあやうきいへしぬきしとさうらひ

















おのれをいふにふたふたのうらみはなほなほ

ふた

夏虫はなほなほのうらみはなほなほ

なほなほ

なほなほのうらみはなほなほ

なほ

なほなほのうらみはなほなほ

なほ

なほなほのうらみはなほなほ

なほなほのうらみはなほなほ

なほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

なほ

なほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

なほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

秋風はなほなほのうらみはなほなほ

なほ

海にのりてゆく舟のゆくは  
人共の心もなほゆく  
まじりてゆく舟のゆくは  
まじりてゆく舟のゆくは

夕の光をよみてゆく舟のゆくは

浦歌

今もゆく舟のゆくは

舟歌

舟のゆくは  
舟のゆくは  
舟のゆくは  
舟のゆくは

舟のゆくは

舟歌

舟のゆくは

舟のゆくは

舟のゆくは

舟歌

舟のゆくは

舟歌

舟のゆくは

舟歌

舟のゆくは

らふはびと我も人のや今とてせしむるまゝと照中堂

貫之

はつりもつらひのてうたふら言と野と海

志げとら

百もじつやんかかかかかかかかかかかかかか

ふんやちあ

るうもれおをけふとせしむらちとくおれとく

ぬえれとせしむらちとせしむらちとせしむらち

くも

今とてつらひとせしむらちとせしむらちとせしむらち

もつらひとせしむらち

つらひとせしむらち

たのびやあむらちとせしむらちとせしむらち

はつらひとせしむらちとせしむらちとせしむらち

ふん

はつらひとせしむらちとせしむらちとせしむらち

はつらひとせしむらちとせしむらちとせしむらち

あ

はつらひとせしむらちとせしむらちとせしむらち

あ

はつらひとせしむらちとせしむらちとせしむらち

あ

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

伊勢

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

花の香をよみしは花の香をよみしは花の香をよみしは

花

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

あはれなる下ははるかにあはれなる

あはれなる下ははるかにあはれなる

あはれなる下ははるかにあはれなる

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書

あはれなる下ははるかにあはれなる

あはれなる下ははるかにあはれなる

中書





Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten signature or name, possibly 'M. J. ...'.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes several lines of text and a signature.

Handwritten signature or name, possibly 'M. J. ...'.



Handwritten signature or name at the top of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a title or introductory phrase.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the page.

ね

貫入の音

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the page.

紙のや厚さのむらも隙を縁とみる層のひあは  
花井文ならぬるとも昔ははらばらなればのふあしあ  
世中よひに地物の音のうらやまはたまたまねとては  
人あひあひはらばらなればなればなればなればな

文則

おもしろいものもこのひの紙のねあはらばらなれば  
あつたあつたはらばらなればなればなればなればな

い

まふあつたあつたはらばらなればなればなればな

い

作らばらなればなればなればなればなればなればな



寫乃志うんけうめ花らふたうめんまはるんよ

梅

社へおしんけいの寫はるんからと梅花を全

國院右大臣

しんけいよひつる物に梅の花を記すあかやうに

東三條右大臣

寫はるんあかやう梅の花にそへてかきんむくく

貴人

くくあかやうあかやう梅の花に記すあかやう

おかし

今年トのあかやう初梅の花に記すあかやう

梅花咲ぬる時うんけいよひつる

梅の花咲ぬる時うんけいよひつる

梅の香はるる時うんけいよひつる

貴人

我宿のあかやう梅の花を記すあかやう

貴人

梅の香はるる時うんけいよひつる

貴人

かきんむくくあかやう梅の花を記すあかやう

貴人

あかやう梅の花を記すあかやう

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

梅の花は白くも紅くも  
梅の花は白くも紅くも

梅

我が乃梅のそむきよはすにあはれなきはなれ  
人々のしるし

あはれなきはなれ梅の花は下は花のしるし  
あはれなきはなれ

雪とのあはれなきは梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

柳

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ梅の花はしるし  
あはれなきはなれ

梅



と柳乃あふりけりて

しる

花をよむしむゆは

い

と柳の枝をかたむ

春井雨乃うらみ

とてしむしむゆは

とてしむしむゆは

しる

石を流しけりて

しる

我宿れものむけり

書之十卷首

百子鳥つらむら

行かぬしむゆは

むはれぬしむゆは

おちりぬしむゆは

かたむらあつしむ

様はあつしむゆは

まはしむゆは

様はあつしむゆは

おちりぬしむゆは





凡そことしてはるる花は心あはれなるものぞ

けりし

今あはれはこそ世ごとく悔ふも一途に

人

花は結ひらして萬のうらみ心も新に

物

春を後にあはれは花の心も

けりし

世中も絶て花の心も

いふ行よかたはる花は

ま雨にあはれは

あはれ

かたはる花の心も

あはれ

けりし

花は心も人の心も

あはれは心も人の心も

花は心も人の心も

あはれ

あはれは心も人の心も

けりし

花は心も人の心も

けりし

山をさぐる所の秋の掃花凡のふも満ちてくつりあ  
けりまをめて地つるまを露と隠しんこの掃花

あき

秋の月音聲たしと掃花人ほくまのまを隠す

あき

夜ふのこえとあけし山掃花のあしひのふもあや

山掃花くさ凡のあせを花乃と隠す人うあや

らくふあまき一物は山掃花のあせを隠す

あき

みよたしと山掃花白雲とのあせを隠す

あき

我あまの掃花は掃花のあせを隠す

あき

ふたつとあせの山掃花極くあせを隠す

あき

山寺にふたつとあせの山掃花極くあせを隠す

あき

山寺のあせとあせの山掃花極くあせを隠す

山寺のあせとあせの山掃花極くあせを隠す

あき

山寺のあせとあせの山掃花極くあせを隠す

あき



とあまがくろく人よ友の世ふからうはるる

おゆ人

我宿代陰そこのむら乃花きよくよよ海神

キヨシヨ

まはみ人花人よ此花あ人枝よああまて

昔

乃盤行の和とさるやがくよは花梅よああうぬ

花

ううにうくあすのゆいす花くらあやうま

こつね

郭ふ片とさあぬあ宿の魚橋のさありあて

わ

ゆいんらあし紀月あすちああみんとさり宿共枝

伊勢

八月より初まはれの花あまじいの人乃神の

子

海あませしあしあすああああああああああ

と朝きあああああああああああああああ

あ

え花のひああああああああああああああ

ああああああああああああああああああ

あ

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

へん

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

へん

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに

あは

へん

わがふはあそくへしんをいふはあはれいづのいづれに





か

あひまはなつきのほろろ

か

はなはなはなはなはな

か

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

か

はなはなはなはな

はなはなはなはなはな

か

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

か

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

か

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

か







しつてゐるはーのていふことくちへは流るる

昔より

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

は

あつたはうはあつたはうのていふことくちへは流るる

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

あつたはうはあつたはうのていふことくちへは流るる

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

あつたはうはあつたはうのていふことくちへは流るる

あつたはう

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

あつたはう

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

か

あつたはうはあつたはうのていふことくちへは流るる

あつたはう

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

あつたはうはあつたはうのていふことくちへは流るる

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

あつたはう

かたがたしるるまゝのていふことくちへは流るる

あつたはう







梅乃花交てもも...  
行らるる...  
葛井...  
千...

梅乃花交てもも...  
行らるる...  
葛井...  
千...

梅乃花交てもも...  
行らるる...  
葛井...  
千...

梅乃花交てもも...  
行らるる...  
葛井...  
千...

梅乃花交てもも...  
行らるる...  
葛井...  
千...

かゝる

我輩は... 我輩は... 我輩は...

我輩は... 我輩は... 我輩は...

大律師

大律師

我輩は... 我輩は... 我輩は...

大律師

大律師

我輩は... 我輩は... 我輩は... 我輩は... 我輩は...

足曳北山乃猶一をけり六はくやと書し終るるは  
ひりよち啼きあつて時鳥くくた友と終るるは  
月子よあつてもさくぬわ抱子時鳥とるは  
あつて地の時鳥とるは

以上七首

首六之

伊勢三首

東隠しつる月時鳥とるは  
時鳥とるは  
さ月とるは  
二終るは

伊勢三首

見川に

有る

うせり

松

友則

お

時鳥とるは  
くさつて  
石とるは  
ひりよち  
あつて  
あつて

五月雨の物さびしき時をよめて嘆かすつとせらる

お

おもひの今別れし心もまを指さるる今さら

公徳のあそ

ゆかして心流るる時鳥今一歩の心流るるは

あつち

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこ

秋の物さびしき時鳥今一歩の心流るるは

あまのこ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

千鳥

あまのこゝろを飽く事なほしきよあまのこゝろ

旗くしんちの河原北門邊の友申はけさうなるもの  
 人をめしむるもの哉るる事しよの事しよの事しよ  
 川子鳥よむじのふらさき鳥よむじのふらさき鳥  
 山行の所もかこい候子もかこい候の事しよ  
 石上坂上郎十  
 小鳥啼きたの河原乃はけさうなるもの  
 おかしの女郎  
 こ鳥申よ友よあらむ物しよと候しよふらさき鳥よ  
 んんく物しよの事しよ川子鳥野よむじの事しよ  
 昔人  
 こ鳥の妹よゆきをく物しよの事しよ

平子鳥

おくあふまのれらあそ平子鳥の事しよ  
 人律はらら女  
 せもはふまのれらあそ平子鳥の事しよ  
 遠近の事しよ  
 我宿花をれらあそ平子鳥の事しよ  
 白子  
 柿のひのいそ花の事しよ  
 流の上れ花よあそ平子鳥の事しよ  
 いらんあそ平子鳥の事しよ

銅糸やのどく... 宿のありけり

胸乃胸のねく... 胸のうら... 胸のねく... 胸のうら... 胸のねく... 胸のうら...

胸のねく... 胸のうら... 胸のねく... 胸のうら... 胸のねく... 胸のうら...

馬

か... 馬... 馬... 馬... 馬... 馬...

み... 馬... 馬... 馬... 馬... 馬...

か... 馬... 馬... 馬... 馬... 馬...

あさねのまはぬあやうしなむらさき  
夕はさかすまはしりかたむらさき  
かきしめ

あさねのまはぬあやうしなむらさき  
夕はさかすまはしりかたむらさき  
かきしめ

あさねのまはぬあやうしなむらさき  
夕はさかすまはしりかたむらさき  
かきしめ

あさねのまはぬあやうしなむらさき  
夕はさかすまはしりかたむらさき  
かきしめ

嘉祿二年仲春下旬  
書写此本有假  
又以他本自  
貞元二年三月十九日  
本重校了  
本有假  
本有假

和歌平本同圖從四倍上源朝

五割

寬文九年

丙午

吉野

開

板

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 吉野, 開, and 板.]*



